

平成 25 年度 第 7 回 マザーレイクフォーラム運営委員会 議事録

日時	2013 年 11 月 5 日 (火) 18:15~20:45	
場所	滋賀県庁北新館 4-A 会議室	
出席者 (50 音順、 敬称略)	石河 康久	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部
	北田 俊夫	NPO 法人 びわこ豊穰の郷
	小林 泉	滋賀県琵琶湖環境部
	佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
	関 慎介	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	中野 隆弘	びわ湖エコアイデア倶楽部
	野田 晃弘	NPO 法人蒲生野考現倶楽部
	廣田 大輔	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	松沢 松治	びわ湖の水と地域の環境を守る会
	三和 伸彦	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	村上 悟	NPO 法人碧いびわ湖
	村井 洋一	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	山口美知子	滋賀地方自治研究センター
	辻 博子	一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク
	村上 浩継	フリーコンサルタント
中村 満	湖南・甲賀環境協会	
	【説明のため参加】滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課 (下村・中西)	

※今回欠席 (敬称略) : 伊吹美賀子 (湖南流域環境保全協議会)、川端隆弘 (公益財団法人淡海環境保全財団)、堀彰男 (滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会)、望月孝幸 (滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課)、渡辺維子 (元: 公益社団法人滋賀県環境保全協会)

今回の決定事項 (要約)

- ・ 運営委員会の下に以下 4 つのワーキングを設置することになった。「WG1 計画への位置づけ」「WG2 Web サイトの運営」「WG3 地域での実践・評価」「WG4 びわコミ会議」

1. マザーレイクフォーラムのミッションについて

前回の運営委員会で、課題ごとに有志で検討を進めるワーキングを設置することが承認されたが、ワーキングでの活動をさらに進めるため、今回より新たに 3 名の方が参加した (辻氏、村上浩継氏、中村氏)。

自己紹介の後、ワーキング設置の議論につなげるために、改めてマザーレイクフォーラムのミッションについて振り返りを行った。提示された内容は大きく以下の 3 点であった。各ミッションについて参加者から出された意見を記す。

(1) マザーレイク 21 計画を全県的に広めていくこと

- ・ 滋賀県ではすでに各地で様々な活動が実施されている。「計画を広める」とは、計画の内容について説明して普及を図ることよりも、すでに実施されている活動を計画に位置づけるとともに、自分たちの計画にしてもらおうということだと理解している。

- ・ 計画期間における新たな取り組みの方向性（「琵琶湖流域生態系の保全・再生」「暮らしと湖の関わり再生」を柱とする総合保全）に各団体・個人の活動を位置づけていくことを想定してエントリーシート等を作成していたが、「2050年頃の琵琶湖のあるべき姿」に位置づけていくことも考えてはどうか。
- ・ 県環境事務所や市町、流域協議会などとも連携して進めていく必要がある。

(2) 多様な人たちの出会いの場をつくること

- ・ 第3回びわコミ会議では、琵琶湖の現状を確認し、様々なテーマについて少人数で議論を行った上で、各自今後1年間のコミットメントを掲げるという形での「計画の進行管理」を行うことができた。また、特に子どもや企業の参加が多くあったことも大きな成果だった。これをびわコミ会議の基本スタイルとして、今後も多様な人々がつながれる場づくりを進めていく。
- ・ 普段はどの団体も自分のことで手一杯の状態であり、他団体との連携を主体的に進めることは難しい。しかし、他団体の取り組み内容を知っておくなど、地域やテーマなどを通じてつながれる素地をつくっておくことが、必要なときに連携できることにもつながっていく。また、他団体の取り組みを知っていることは、競争心を持って自分たちの活動を活発化させることにもつながる。

(3) 暮らしの中に浸透させていくこと

- ・ 計画に書かれたことを実際に進める上でどのような課題があるのか、実際の地域や現場で体験・実践していくことがまず大事である。そこで得られた知見を、全県的な仕組みに展開していくことが必要である。
- ・ 第2回びわコミ会議で分かったことは、見知らぬ人たちが集められても急に議論はできないということであった。本音で話し合ったり、多くの団体・個人が力を合わせて取り組んでいくためには、普段からのコミュニケーションが何よりも大切である。

2. 運営委員会のワーキングについて

(1) 次年度のびわコミ会議に向けたスケジュールの確認

ワーキングのテーマについて話し合う前に、次年度のびわコミ会議に向けたスケジュールの確認を行った。今年度のびわコミ会議の振り返りの中で、話し合うテーマの募集や広報を早い段階で行う必要性が認識されたことから、以下の通り進めていくことになった。

2月頃	話し合うテーマ募集・企画の検討（開催の半年前を目処に）
5月頃	日時・場所の決定
5-6月頃	広報の開始
8月末	第4回びわコミ会議

(2) ワーキングのテーマについて

以下の通りワーキングのテーマとそのコアメンバー（自薦+他薦）が決定した。なお、その他のメンバーについては、コアメンバーから声かけをしていくが、興味のあるワーキングに積極的に参加してもらって構わない（基本的には「この指とまれ」方式）。

WG1 計画への位置づけ

コアメンバー：山口・三和・辻

内容：県内各地で実施されている活動を計画に位置づけていく。活動の中で、地域フォーラムとの連携についても検討していく。

WG2 Webサイトの運営

コアメンバー：佐藤・村上浩継

内容：マザーレイクフォーラムの Web サイトの構成や内容、その運営方法について検討する。

WG3 地域での実践・評価

コアメンバー：村上悟

内容：実際の地域において計画に書かれた内容の実践・実験を行い、評価した上で、得られた知見をマザーレイクフォーラムにフィードバックしていく。

WG4 びわコミ会議

コアメンバー：井手

内容：びわコミ会議の進め方や内容について検討する。

なお、「団体・個人の活動を紙面や Web 等で紹介していく」というワーキングも提案されたが、今回は（労力的観点から）見送られた。今後、提案されたワーキングの進捗に合わせて再検討していく。

3. その他

- ・ 滋賀県自然環境保全課より、「平成 25 年度 しが生物多様性大賞」の紹介があった。これは、滋賀県と滋賀経済同友会が協力して、企業と NPO・地域との協働による優れた活動を表彰するものである。マザーレイクフォーラムおよび計画の理念とも大いに共通するところがあるため、マザーレイクフォーラムとの連携という形で進めてもらえることになった。
- ・ 次回、全体で行う運営委員会は 1 月に開催する。それまでに各ワーキングでの活動を可能な範囲で進めておく。

【当日のホワイトボード】

今日の予定

1. 自己紹介
2. びわこミのフォローアップ
3. 部会の設定
4. 事務局体制
5. その他

MLFについて

- 具体的な連絡が課題
- 事務局体制の見直し
- 全県的に広げる工夫
 - 1期時の流域協賛会も模として (湖南 湘東等)
 - 既に色々とやられている活動とリンクしていく (行政への連携)
 - 地域の環境事務所と連携
- 生活・暮らしの中での浸透
 - ← 地域・現場での仕組みづくり
 - 全県的な仕組みづくりの展開
 - 日常的なコミュニケーション
- 連携のとりかた ぬすか
 - 出会う場づくり = 地域での連携 (各自は自分の団体で一杯)
 - 競争心持ってもいいことが重要
 - 火事場どきにつなげる場づくり

11月

- ① 計画の将来像への位置づけ
- ② 団体・活動の紹介 (ネット)
- ③ webの構築
- ④ 地域フォーラムとの連携
- ⑤ 地域への発信・発信
- ⑥ びわこミ

2月 テーマ募集・企画検討

6月 広報

夏: びわこミ(ボカミ)

8月

① 山口 + 辻 + 三和

② 佐藤 + 村上浩つ

③ 村上悟

④ 井中

次回 1月

GPN

幹事 30人

- 研究会
- 研究会
- 研究会

kiki70

WG

WG

WG

将来像

見える化

既存

AGN

BDN

CSL

既にある関係を紹介する

(例) 東近江のマンダラ

会派・4P

協賛

分科

協賛

協賛

協賛

- 以上 -